

WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA
CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTECH

Jms

OKAWO
Express

DIESEL AID

FUJITSUBO
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会



WellVets
— Animal Welfare Group —

KBC
DENTAL CLINIC

GLOBAL
QUARTZ CRYSTAL

本田鉄工株式会社

Quattro
タイヤ・メンテナンス

RACING PROJECT
BANDOH

『4 度目の P.P 獲得も天候に対応できず想定外の結果に』



シリーズ名 : 2022 AUTOBACS SUPER GT シリーズ

大会名 : 2022 AUTOBACS SUPER GT Round 6 SUGO GT 300Km RACE

SUPER GT Round.6 SUGO 決勝結果【15 位】

レース距離 : 1 周 3.586 km×84 周 (301.2km)

9 月 17 日 (土) 天候 : 曇り / 路面 : ドライ

9 月 18 日 (日) 天候 : 曇り時々雨 / 路面 : ドライ-ウェット-ドライ

9 月 17 日 (土) 予選 Q1 : 国本選手 7 位 / Q2 : 国本選手 1 位 /

公式予選 : GT500 クラス 1 位 (1:09.627)

曇り空の中、開催された第 6 戦 菅生。サクセスウェイト最大となる第 6 戦は、コースレイアウト上、抜きにくいサーキットと言われている。いつも以上に予選が重要視される事となる。去年の菅生では車両火災により途中リタイアとなった 19 号車は、今年は表彰台のトップを目指し、予選に挑んだ。

午前中の公式練習では混走時間帯では阪口選手が出した 1 分 11 秒 247 を出して 2 番手となり、その後 500 クラス占有時間には予選に向けてのチェックの中、タイム更新は無かったものの、全体では 7 番手となった。



Q1 のアタックドライバーは国本選手。静かな予選開始となり、残り 8 分半で 2 台が、残り 7 分半で 19 号車も含め、多くの車がコースインしていく。19 号車は周回を重ねていく。各車周回を重ねて残り 2 分を切るあたりからタイムアタックに入っていく。ターゲットタイムが 1 分 10 秒フラットという厳しい条件の中、軒並み上位のチームがタイムを出していく。

19 号車は残り 30 秒で出した 1 分 10 秒 195 は暫定 4 位のタイム。その後、1 分 10 秒を切る車両が 3 台、1 分 10 秒フラットから 19 号車の 0.195 の間に 4 台がひしめく激しい争いとなった Q1 を 19 号車は 7 番手にて突破いたしました。

Q1 の結果は、コースレコードを更新した 16 号車がトップ、以下 64-38-39-100-23-19-17- (以下 Q1 敗退)-8-37-3-14-24-12-36 となりました。

Q2 のアタックドライバーは阪口選手。Q1 と同じように静かなスタートとなった Q2 は各車がコースインして周回を重ねていく。残り 2 分でアタックに入った阪口選手は、セクター 1 からセクター 3 まで全ての車両よりも速いタイムで周回していったのだが、セクター 4 にてコースアウトし復帰した車両に引っ掛かってしまう。だが、それまでの貯金と最終コーナーからメインストレートにかけての鬼神とも見える爆走の結果は、コースレコードを更新する 1 分 9 秒 627 とポールポジションを奪取することとなった。

Q2 の結果は、19 号車が今年 4 回目のポールを獲得、以下 38-23-100-17-39-16-64 となりました。

今年は 6 戦中 4 回のポールポジションと、チームの調子は最高潮に達しております。今度こそ、菅生の魔物を跳ね返し、表彰台のトップを目指し、爆走していきます。

皆様の応援、宜しくお願いいたします。



WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA CLUTCH

MIE TOYOPET

RUTEK

Jms

OKANO Express

DIESEL AID

FUJITSUBO EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会



WellVets
— Animal Welfare Group —

KDC
KAWASAKI DENTAL CLINIC

GLOBAL CRUISE
HUBBARD CRUISE

本田鉄工株式会社

Qway Tire
タイヤカーテンボルト

RACING PROJECT
BANDOH

予選コメント

【坂東監督】



『素晴らしいドライバー、エンジニア、スタッフ、素晴らしいファンの皆様のおかげです。開発してきたタイヤが結果を出せて本当に嬉しいです。今年4度目のポールポジション獲得。15台中Q1突破率100%は19号車だけです。通算8回目のポールポジションとなりました。たしか2007年の18号車が年間5回獲得。しかしあの時は年間9戦ありましたね。問題は明日です。』

【国本選手】



『今年4度目のポールを獲得できました。とても嬉しいです。今回は今までと違うセットアップで挑みましたがいろいろとアジャストしながらタイヤのパフォーマンスを引き出す事ができました。決勝は全力で毎周プッシュしながら優勝目指して頑張ります。』

【阪口選手】



『獲ることができました。
事前テストでも良い感触があったので自信はありました。
フリー走行では思ったような感触ではなかったので今回は難しいかな？
と思ったのですが
占有、Q1、Q2とアジャストしながらタイヤのパフォーマンスを出すことができました。
Q2のタイヤのグリップは素晴らしかったです。
セクター4で前の車に引っかかってしまいましたがコースレコードも更新できました。』



決勝 9月18日 GT500クラス 決勝結果 15位

分厚い雲が覆っているスポーツランド SUGO で開催される第 6 戦決勝。台風号の影響で天候の予測が難しく、予報では開始 1 時間後に降雨の予報が出ている。魔物が出るというサーキットで、いつ、どこに牙を剥くのか。それを撥ね付けて 19 号車は表彰台のトップを目指して爆走していく。

スターティングドライバーは国本選手。気温 27 度、路面温度 33 度とコンディションがどうレースを左右するか。

決勝前の 20 分のウォームアップ走行では決勝に向けての調整をふくめての 7 番手となった。

恒例の宮城県警車両が先導するパレードランが 1 周、フォーメーションラップが 1 周の後、84 周先のゴールを目指し、スタートが切られた。

ウィービングしながらトップで 1 コーナーに入る 19 号車。

だが、ヘアピンの入り口で 38 号車にインに入られ順位を落とすと、さらにハイポイントで 100 号車にパスされ 3 位に。後ろから 17 号車に襲いかかれるのを懸命に押さえようとした直後、300 クラスが接触してコースアウトした為、SC が入った。

4 周目に SC が解除され、レース再開。再スタートで後ろの 17 号車との差を広げることが出来、単独の 3 位走行となる。

9 周目には 300 クラスに追いつく形で 500 クラスのトップ集団が追いつく形となる。10 周目で 19 号車の順位は 3 位。前の 100 号車とのタイム差はコンマ 6 秒。後ろの 17 号車とは 2 秒半となっている。

12 周目ぐらいからコースの南側から雨が降り出してきて、カメラに水滴が付くようになってきた。

14 周目ぐらいからは各車ワイパーを動かし始めた。そして、一気に雨が降り出してきて、レース全体のペースがガクッと落ちてきた。16 周目にはトップの 38 号車を皮切りに 100、そして 19 号車もピットに入り、ピットが一気に混雑してきた。

19 号車はタイヤ交換をしてコースに復帰するが、





順位は暫定 13 位となってしまう。

19 周目には後ろの 14 号車にパスされて 14 番手に。
直後に 300 クラスのコースアウトにより 20 周目に
FCY が出された。21 周目に FCY が解除される。
雨は強弱を付けて振り続け、雨量によって各車の
ペースが変わる中、25 周目までに前の 24 号車を
パスした 19 号車は、さらに前の 12 号車との差を
積み、27 周目にパスして 11 番手に上がる。

29 周目には 10 位で順位を戻す。

30 周目に前の 100 号車がピットに入り、
19 号車は 9 位。32 周目にはルーティンの
ピットイン組が入る中、34 周で暫定 7 位、
38 周目は暫定 4 位に。40 周目には暫定 3 位と
なった。

41 周にピットに入り、フルサービスを行い、

暫定 10 位で復帰する。その後、44 周目に 36 号車にパスされ 11 位に、46 周目に 17 号車にパ
スされ 12 位となるが、49 周目には 17 号車をパスして 11 位に。

51 周目に 3 度目のピットイン。ドライタイヤに交換して暫定 12 位で復帰する。61 周目、19 号車は
1LAP 遅れの 13 位。

69 周目あたりで再び雨が降り出してきた。残り 9 周で 19 号車は再びピットに入り、大逆転を狙いタ
イヤをウェットに代えてピットアウト。勝負に出たが、天候が悪化することは無く、残り 3 周で 24 号車に
パスされ 15 番手となり、そのままチェッカーを迎えました。

レースは、後半までピット作業を遅らせてトップに出た 3 号車がチェッカー。以下、23-16-38-12-39-
64-100-36-37-14-17-8-24-19 となりました。

SUPERGT

<https://supergt.net/pages>

BANDO H

<http://www.bandohracing.com/>





決勝コメント

【坂東監督】



『難しいコンディションの中、僕らはパフォーマンスを出す事が出来ませんでした。もっと色々と出来たことはあったと思います。色々勝てない原因を分析して次に繋がります。たくさんの応援ありがとうございました。本当に情けないレースが続きますがチームが強くなるための通過点だと思って前向きに頑張ります。』

【国本選手】



『菅生ラウンドは残念な結果となってしまいました。天候が目紛しく変わるレースの中で、全体的にパフォーマンスが低く順位を守れなかったです。また自分のスティントでは、せっかくチームメイトが取ってくれたトップからのスタートを1周も守る事が出来ず非常に残念です。反省の多いレースでしたが、強くなるチャンスとポジティブに捉えて次戦に向けて準備していきます。』

【阪口選手】



『スタートしてからドライのペースは良いものがありましたが、雨が降りウェットコンディションになり苦しいレースになりました。自分が担当したスティントはドライに近づいていくなかでスティントになりましたが他車と比べて全くペースが足りませんでした。ドライタイヤに変更した後も良いペースで走れず厳しいスティントになりました。幅の狭さが露骨に出てしまったレースでした。』

次戦はすぐなので今自分にできるのとはないか今一度考え、オートポリスで良い結果を残せるよう取り組んでいきます。』